

法政大学大原社会問題研究所

# 所 報

(2021.2.1 ~ 2.28)

## □刊行物

『大原社会問題研究所雑誌』749号 (2021年3月)

## □図書受入

	和 書	洋 書	計
購 入	53	18	71
受 贈	40	0	40
合 計	93	18	111

## □閲覧サービス

### 閲覧

開館日数	18日
閲覧者数	7名
貸出図書	10冊

### コピーサービス

学外	7件	3,193枚
学内	0件	0枚

## 日 誌

- 1日 事務職員の部分的テレワーク継続 (~28日)  
3日 所員会議 (オンライン)  
事務会議 (オンライン)  
6日 個人研究費説明会 (参加者: 川面, 菊地)  
10日 『日本労働年鑑』編集会議 (オンライン)  
15日 地下3階書庫サーキュレーター工事 (~3月6日)  
17日 運営委員会  
議題①次年度の兼任研究員の承認  
②次年度の客員研究員の承認  
③次年度の嘱託研究員の承認 (再任, 新規)  
④次年度の運営委員会委員について  
⑤「多摩図書館リノベーション案」意見聴取に対する運営委員会の見解について  
公開講演会 (オンライン)  
エイコ・マルコ・シナワ (ウィリアムズ大学歴史学教授) 「『悪党・ヤクザ・ナショナリス

ト』を執筆するまで」(参加者: 96名)

研究員総会 (オンライン, 参加者: 48名)

- 24日 東京修復保存センターから資料修復およびデジタル化の納品 (『日本労農新聞, 日本大衆新聞])  
25日 OISR.ORG サイト制作者との打ち合わせ (オンライン, 参加: 内藤課長, 野々村主任, 中村, 菊地)  
26日 『日本労働年鑑』編集会議 (オンライン)  
27日 大原社会政策研究会 (第79回) (オンライン)  
渋谷淳一 (上海立信金融会計学院外国人講師 / 法政大学大原社会問題研究所客員研究員)  
「アジアから日本への若者移民——送り出し機関へのインタビューから検討する移民システムの現状」

## 大原社会問題研究所雑誌

No.752 (2021年6月号)

2021年6月1日発行

定価 1,018円 (本体926円+税10%)

年間購読 12,000円 (税込)

編集 (兼) 発行人 法政大学大原社会問題研究所

編集長 藤原千沙

所 長 鈴木 玲

〒194-0298 東京都町田市相原町 4342

電話 042 (783) 2305

印刷 株式会社相模プリント

# 投稿募集

『大原社会問題研究所雑誌』は、社会労働問題に関する学術研究雑誌で、「論文」「資料紹介」「調査報告」の投稿を受け付けております。下記の投稿規程と執筆要領に基づいてご投稿ください。規程と要領に沿わない原稿は受理できません。[2019.10.1 改定]

## 投稿規程

1. 投稿原稿はワープロ・パソコン作成による未発表のものに限ります。
2. 投稿原稿の分量は、原則 20,000 字以内（図表・スペースを含む）です。
3. 投稿原稿は、審査用原稿となりますので、本文や注などで執筆者が特定される記述をしないでください。1 ページ目は、原稿の題目に続けて無記名で本文に入ってください。
4. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。「論文」は審査の結果、「研究ノート」となることがあります。
5. 掲載原稿には、掲載誌 2 冊と抜刷 30 部をさしあげます。
6. 投稿者は、次の各 3 部を下記宛てに郵送してください。

A：投稿原稿（審査用原稿）

B：投稿原稿の要旨（1,000 字程度）

C：表題紙

C の表題紙に記載する事項は、投稿原稿の、①題名、②目次、③分量（図表を除く文字数（スペースを含める））、④図表の有無と数、⑤著者の氏名（よみがなを併記）、⑥肩書き（所属・職名、大学の場合は学部等まで）、⑦略歴、⑧連絡先（郵便番号、住所、電話番号、電子メールアドレス）です。

7. 投稿者は、投稿原稿の郵送後、B：投稿原稿の要旨、C：表題紙を、下記宛てに電子メール（もしくは FAX）で送信してください。件名は【投稿(お名前)】としてください。

『大原社会問題研究所雑誌』編集委員会宛

【郵送先】〒194-0298 東京都町田市相原町 4342 法政大学大原社会問題研究所

【メールアドレス】ohara-journal@hosei.ac.jp 【FAX】042-783-2311

## 投稿原稿 執筆要領

1. A 4 判の横書き、40 字×40 行、下部にページ数を付し、白黒・片面で印刷する。
2. 原則として、数字は算用数字、句読点は「、」と「。」を用いる。
3. 本文の各節には「.」のない 1 2 …を用いる。
4. ワードプロソフトによる脚注の挿入機能は使用してよい。
5. 図表は、白黒印刷できるものを提出する。本文には余白に【表 1】等と挿入場所を指定し、図表そのものは別紙に一括し、通し番号をつける。図表の文字換算数は定めないが、審査にあたっては、図表の大きさで全体の分量を概算する。
6. 参考文献は、著者名・発行年・論文名・雑誌名（書籍名）・巻号（出版社）・雑誌の場合は頁数を記述し、著者名（姓）のアルファベット順または五十音順に記載する。ただし他の記載方法も可とする。

### 【記載例】

榎一江（2017）「近代日本のパターナリズムと福利施設」『大原社会問題研究所雑誌』705 号、29-43 頁。

原伸子（2015）「イギリスにおける福祉改革と子どもの貧困——「第三の道」と社会的投資アプローチ」原伸子・岩田美香・宮島喬編『現代社会と子どもの貧困——福祉・労働の視点から』大月書店。

Suzuki, Akira（2016）“Japanese Labour Unions and Nuclear Energy: A Historical Analysis of Their Ideologies and Worldviews,” *Journal of Contemporary Asia*, Vol.46, No.4, 591-613.